ティーチング・ステートメント

所属 商学部総合教養センター
名前 加藤 英一
作成日 2026 年 2 月 12 日

【責任】

商学部総合教養センターに所属する。専門分野は社会学、倫理学、哲学である。主な担当科目は、社会学、倫理学、哲学、倫理社会学（日本スポーツ協会資格対応科目）等である。その他としてアカデミックアドバイザーとしてゼミナール（3,4,5,6）を担当している。また学術専門部会に所属しており、主に大学における研究推進活動を担当している。

【理念】

人格の形成に関しては、大学を卒業した者として社会人としての常識を身につけることは当然のこととして、本学の建学精神である「安じて事を託される人となれ」と述べられているように他者から信頼される人物になってほしいと希望する。また更に人々からの信頼のもと、社会においてリーダーシップをとれる人物に成長して欲しい。

学問的側面に関しては、やはり大学を卒業した者として学問そのものの面白さを理解することを通じて、より豊かな人生を過ごしてくれることを希望する。特に学問の中でも社会学や倫理学、そして哲学は社会の仕組みや、人びとの間のコミュニケーション、そして価値や価値観、論理的思考方法などを取り上げており、人間が社会の中で生きることを学ぶのに最適である。そこで大学時代には、社会学や倫理学、そして哲学の基礎知識を習得し、その知識を基に現代社会の諸問題の理解を深めて欲しい。

【方針・方法】

上記理念を実現するため、「社会人としての常識を身につける」、「学生のレベルおよび需要に合わせた授業内容」、「基礎知識と共に最新の学問内容を授業に反映させる」「質の高い授業の提供」という方針の下、教育を行っている。以下に各々の方法を記述する。

方針１　「社会人としての常識を身につける」

1. 生活面でも学生の模範となるように、教員自身がルールを厳守する。
2. 授業開始時間及び終了時間を厳守する。
3. 可能な限り授業開始時間の 5 分以上前に講義室に入室する。
4. 学生に対して提出物等のルール及び期限を厳守させる。

方針２　「学生のレベルおよび需要に合わせた授業内容」

1. ゼミでは学生の関心に基づいて毎学期テキストを決めて、輪読し学生にレジュメを作成させたうえで各人にプレゼンテーションを課している。
2. 学生が報告した内容について、ポイント、表現方法を指摘したうえで、社会学、倫理学、および哲学的視点からコメントを行っている。
3. 講義形式の科目に関しては、既成のテキストは使用していない。既成のテキストは標準的ではあっても、必ずしも目の前の学生に合っているわけではない。そのため学生のレベルおよび需要に合わせた内容でレジュメ（各科目 50 ページ程度）を作成・配布して授業を行っている。
4. 学生に配布するレジュメは重要な個所をブランクにし、授業中に埋めるようなワークブック形式にして、学生が飽きないように工夫している。

方針３「基礎知識と共に最新の学問内容を授業に反映させる」

1. 社会学、倫理学、および哲学の基礎知識に関しては、特にテクニカルタームを中心に教授し学生の理解を深める。
2. 新聞等の情報を題材として、その内容を社会学、倫理学、および哲学の視点から学生に対して説明を試みる。
3. 社会学、倫理学、および哲学における先端研究を、学生が理解できるように図や表、写真などをまじえて分かりやすく解説する。またそれに伴いレジュメを常に更新していく。
4. 授業を立体的にするために、最新の映像等を授業に取り入れる。

方針４　「質の高い授業の提供」

1. 中学校や高等学校とは異なり、大学での教育は研究を基盤としている。そこで大学の教員は、教育者であると共に研究者でなければならない。大学の教育の質は、教員の研究能力に比例する。このことから常にとどまることなく研究を進めていく。
2. 社会学、倫理学、および哲学の研究を分かりやすく授業に応用する。
3. 研究内容をまとめて、研究論文を執筆・投稿する。
4. 学会等の活動に積極的に参加する。

【評価・成果】

1. 授業評価において特に学生からの記述によるコメントに注意をしている。
2. 授業評価に関しては、ほぼ安定した評価を得ている。
3. 学生が社会問題に関して関心を抱くようになってきている。そのため授業に対する個人的質問が増えてきている。
4. 下記の研究論文を執筆した。

2021 年「スポーツマンシップの意義」横浜商大論集 54 号第 1・2 号合併.

2021 年「スポーツ参与とその要因 －『スポーツの実施状況等に関する世論調査』からみえたもの－」横浜商大論集 54 号第 1 ・2 号合併.
2021 年「現代女性のスポーツ参与について」横浜商大論集 54 号第 1 ・2 号合併.
2022 年「古代ギリシャの正義論」横浜商大論集 56 号第 2 号.
2023 年「ヘレニズム時代の正義論」横浜商大論集 56 号第 2 号.
2024 年「古代ローマの正義論」横浜商大論集 57 号第 2 号.
2024 年「中世の正義論」横浜商大論集 57 号第 2 号.
2024 年「サブ・カルチャーにおける「正義」の変化－昭和と平成の仮面ライダーの比較を通じて－」横浜商大論集 57 号第 2 号.
2025 年「近代の正義論Ⅰ」横浜商大論集 58 号第 1 号.
2026 年「近代の正義論Ⅱ」横浜商大論集 59 号第 1 号.

【目標】

1. 学生が社会の諸問題に対して、社会学、倫理学、および哲学の視点から自らの意見を言えるようにする。
2. 学生のコミュニケーション能力、特に論理的思考能力を伸ばす。そのためには、基本となる書籍を正確に読み取る能力とそれを他者に伝えるプレゼンテーションの能力をつけることができるようにする。
3. 中・長期の目標となるが自らの研究をまとめて書籍を出版する（1 年半～2 年の予定）。
4. 学内における研究活動の活発化を促す。